

平成31年度

事業計画書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

平成31年度事業計画

当財団は京都コンサートホール、地域文化会館（5館）、ロームシアター京都の指定管理者として施設の運営に当たっております。

平成31年度は、京都コンサートホール、地域文化会館（5館）については、指定管理者として4期目の初年度を迎え、ロームシアター京都については3期目の初年度を迎えるに当たり、更に安定的な事業運営・施設管理を行うとともに、「中期経営計画2021」に掲げる目標の達成に向けた取組を推進していく必要があります。

京都コンサートホールにおいては、第23回目となる「京都の秋 音楽祭」や、海外の一流オーケストラ公演をはじめ、世界トップレベルの音楽鑑賞の機会を提供して参ります。また、本年度は、新規事業として京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join us! ～^{ジョイナス}キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』を実施し、小学校などを対象にクラシック音楽の素晴らしさをお届けしてまいります。

地域文化会館においては地域との関わりを一層深め、地域の文化力の更なる向上に貢献してまいります。

また、ロームシアター京都についても、2016年1月のオープンから3年を経て、3期目の指定管理期間の初年度を迎え、「創造」「育成」「交流」「生活」の4つの事業の要素を柱に多彩な事業を引き続き展開し「劇場文化」を創出するとともに、適切な施設管理と来館者サービスの維持向上を図り、安定した運営を推進してまいります。

さらに、京都市交響楽団は、京都の音楽の中心を担い、多様な日常生活に浸透し市民の誇りとなり、文化芸術都市・京都にふさわしいオーケストラを目指すとともに、平成31年度は「地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律」への対応を行いつつ、更なる経営力の強化を図ります。

『公益目的事業』

■ 京都コンサートホール

I 主催・共催事業〔36事業41公演10講座〕

京都コンサートホールでは、京都市交響楽団のフランチャイズホールとして、世界トップクラスのオーケストラやアーティストの招へいを主軸とし、ホールの個性となる独自の企画で音楽芸術をより広く発信していきます。ホール主催事業の基幹である「第23回 京都の秋音楽祭」は、京都市交響楽団の演奏による「開会記念コンサート」で幕を開け、約2か月にわたり23公演を実施いたします。また、新規事業として『京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業』を展開いたします。オーディションによって選ばれた京都ゆかりの新進音楽家が、アウトリーチ活動を通じて上質のクラシック音楽を地域に届けてまいります。

育成事業及び普及事業では、新たなクラシックファン拡大を目的として、廉価な価格設定によるコンサートを実施します。多様な視点を持つことで豊かな特徴を出し、より一層の振興・発展に貢献します。同時に、音楽を通してすべての市民がより豊かな感性を育み、生活に潤いをもたらすことができる一助となれるような事業を展開し、クラシック音楽専用ホールの役割を果たします。

京都コンサートホールは、文化芸術都市・京都の創生を体現した世界レベルの音楽芸術の殿堂にふさわしいホールを目指します。

1 京都市交響楽団の更なる飛躍を促進

京都市交響楽団による優れた演奏会の展開を図るため、主催事業の基幹となる「京都の秋音楽祭 開会記念コンサート」のほか、世界のトップアーティストとの共演を実現する「京響スーパーコンサート」を開催します。平成31年度は、世界最高峰の合唱団として名高いスウェーデン放送合唱団をゲストに迎え最高のステージをお届けし、京都市交響楽団が世界に誇れる存在であることを広くアピールしてまいります。

また、アンサンブルホールムラタでは、京響メンバーによる様々なアンサンブルなどを共同制作し、個々の活動をサポートすることで、京都市交響楽団の飛躍に貢献します。

2 質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供

平成31年度は、アメリカの5大オーケストラのひとつとして有名な『フィラデルフィア管弦楽団』を14年ぶりに招聘し、華やかで迫力のある演奏を鑑賞いただけます。

また、作曲家セザール・フランクを生んだベルギーから初来日となる『ベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団』を招聘します。自由で革新的な特徴を持つアメリカの響きと西ヨーロッパで培われた伝統の響きをお楽しみいただけます。

アンサンブルホールムラタでは、ヨーロッパで話題沸騰の人気ア・カペラ・ユニット「クアルトナル」を招聘し、クリスマス・コンサートとして市民のみなさまにお楽しみいただきます。そして、海外アーティストによる室内楽を主にしたシリーズ「北山クラシック倶楽部」も引き続き展開します。

クラシック専用ホールであるアンサンブルホールムラタから発信する質の高い事業を通して、室内楽の鑑賞機会の充実を図るとともに、室内楽ファンの開拓を目指してまいります。

3 日本有数のパイプオルガンの活用

京都コンサートホールの大きな特徴のひとつであるパイプオルガンを活用した『オムロンパイプオルガンコンサートシリーズ』を2公演開催します。平成27年度から毎年チケット完売が続く、市民に愛されるコンサートシリーズと成長してきました。平成31年度も引き続き、注目の若手奏者を起用する「オルガニスト・エトワール」と、世界で活躍するオルガニストをお招きする「世界のオルガニスト」を展開し、さらなるファン層の拡大に努めながら市民の期待に応えてまいります。

4 ジュニアオーケストラの運営／大学生を中心とした実演家の育成支援

次代の文化芸術の担い手や鑑賞者の育成を図るとともに、文化芸術を通してコミュニケーションを促進し、青少年の健全な育成に寄与します。

平成17年度に設立した「京都市ジュニアオーケストラ」を京都市交響楽団員の演奏指導のもとに運営し、「第15回 京都市ジュニアオーケストラコンサート」で練習成果を発表します。また、京都市立芸術大学をはじめ関西の音楽大学8大学で結成されるオーケストラと合唱団による「第9回 関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール」においても音楽教育の成果を発表する“音楽の檜舞台”の役割を果たしてまいります。

5 子どもや青少年の創造性を育む事業

教育プログラムとして、家族やクラシック音楽の初心者を対象とした『KCH的クラシック音楽のススメ』を開催します。様々な層にアピールすることで未来の聴衆を育成する役割を担います。同時に、3年計画で実施する新シリーズ『3つの時代を巡る楽器物語』の第1回の開催や、ピアノ五重奏の傑作を若手音楽家の演奏でお聴きいただくオリジナル企画も展開し、若い聴衆の開拓にも努めてまいります。

また、幼児からオルガンに親しめる体験型演奏会「ポジティブオルガン体験講座」では、コンサートホールという特別な空間を体感していただくとともに、実際に目の前で音楽に触れる体験を提供します。子どもたちの好奇心と想像力を刺激できるようなプログラムで実施し、豊かな感性を育むことを目指して取り組みます。

平成31年度の新規事業としてスタートする『Join us! ～^{ジョイナス}キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』では、京都コンサートホールの登録アーティストが地域の様々な場所へ出向き生演奏を届けていくことで、クラシック音楽の普及に寄与して参ります。

6 地域の活性化と市民参加型演奏会の開催

新たな聴衆の拡大や、クラシック音楽ファンのすそ野を広げる目的を持ち、幅広いジャンルの音楽をオリジナル企画として制作・開催します。財団が有するコーディネート力を活かし、音楽のあるまちづくりの中心として、賑わいをもたらす事業に取り組みます。

平日11時開演のワンコインコンサートとして人気の『おんがくア・ラ・カルト♪』は、全4公演を実施します。様々な楽器の演奏者、多彩なプログラムで、市民が気軽に音楽に親しめる機会を提供していくとともに、地域の商店街と協力関係を持ち、地域の活性化に貢献してまいります。

また、市民演奏家が熱演を繰り広げる「リレーコンサート」では、実際に舞台に立つ喜びを提供します。市民へ向けてより開かれた事業として、また音楽を通しての交流の場となることを目指して開催します。

ホールに賑わいをもたらすことを狙いとした新規事業『京都コンサートホール・ロビーコンサート』では、1階エントランスホールを活用し、入場無料とすることで様々な客層に対して来場機会を提供します。

7 2020年度事業の準備

2020年5月に日本と海外の合唱団が「平和」をテーマに合唱音楽を披露するフェスティバル「Sing for Peace ～KYOTO 2020 コーラス・フェスティバル～」を3日間にわたり開催いたします。平成31年度はその準備として、記者発表をはじめとする広報活動やチラシ制作を行って参ります。

8 音楽芸術活動の支援制度

将来の音楽芸術文化を担う人材の育成に資するため、音楽芸術活動を財政面で支援する「京都コンサートホール ホール利用助成金交付制度」を「京都コンサートホール ホール利用助成制度」に名称変更のうえ引き続き実施し、大学の交響楽団演奏会や若手音楽家による室内楽演奏会などを支援します。また、大学からのインターンシップや中学校での「生き方探究チャレンジ体験」、小学校からの施設見学会などの受け入れを積極的に行ってまいります。

(参考) ホール利用助成制度の実績

年 度	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
実 績	11事業	12事業	17事業	15事業

(参考) 京都コンサートホールにおける事業・公演数の変遷

年 度	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)	平成31年度 (計画)
事業数	30事業	39事業	38事業	47事業	36事業
公演数	34公演	41公演	41公演	51公演	41公演
講座数	4講座	4講座	4講座	4講座	10講座

※平成27年度は、ロームシアター京都オープニング・プレ事業（2事業2公演）を含む。

II 受託事業

1 指定管理業務

京都コンサートホールは「世界レベルの音楽芸術の殿堂」としての機能を高めるとともに、より安心・安全で利便性の高い公共ホールとしての機能を高め、更なる利用の促進を図ってまいります。

2 施設管理の目標

京都コンサートホールの利用者の増加やホール利用助成制度の活用促進、リピーターへの営業活動により日数利用率の増加を目指します。

平成31年度の施設利用料金収入額等の目標については、過去3年間の実績を基本に平成30年度実績見込及び平成31年度申込状況等を勘案し設定しました。

目標1 利用料金収入額

(単位：千円)

区分	平成31年度 目標	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
ホール利用料金	211,944	204,483	188,206	203,167	212,620
駐車場利用料金	20,186	20,365	17,984	18,199	18,634
合計	232,130	224,848	206,190	221,366	231,254

目標2 入場者数

(単位：名)

区分	平成31年度 目標	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
入場者数	290,000	304,263	258,587	299,450	295,514

目標3 日数利用率

(単位：%)

施設	平成31年度 目標	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
大ホール	68	67	60	66	69
アンサンブル ホールムラタ	60	54	54	58	62

○上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。

○学校関係に対し、利用案内の送付・営業訪問を行います。

○定期的なホール利用促進会議を実施し、近隣ホールを利用する団体、また周年を迎える企業や芸術文化団体をリサーチし、営業訪問等を行うとともに、ホールをご利用いただいた皆様へ、後日、アンケートを兼ねたお礼状を送付し、リピーターの確保並びにニーズ把握に努めます。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上会議（CS会議）の推進

全施設に設置しているCS（顧客満足度向上）会議やレセプション会議を引き続き開催し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上に努めてまいります。

施設で働く全部門の従事者の代表が参加し、利用ニーズの把握、要望の検証等を協議し、「利用者が望むものは何か」を常に考え、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置

今年度も「理事長への手紙」を引き続き実施し、手紙をいただいた皆様からのご意見を参考に、これまで以上にサービスの向上に努めます。

また、施設の利用に関する要望や提案をお伺いするために、「お客様ご意見箱」の設置や、施設を利用する全ての利用者（鑑賞者、主催者、来館者等）を対象にしたアンケート調査を実施します。

(3) 京都コンサートホール鑑賞マナーの推奨

鑑賞者に演奏会をより快適な空間・環境で楽しんでいただくために、「鑑賞マナーリーフレット」の配布や館内に鑑賞マナー向上についてポスターを掲示して、京都コンサートホールに来ていただいた全ての鑑賞者が満足していただける環境づくりに努めてまいります。

(4) 施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後、23年が経過し、施設の老朽化を踏まえ日常の設備運用や保守点検、備品管理等を適正に実施します。また、京都市による劣化度調査の結果を踏まえ大規模修繕へ向けて計画的かつ効率的な修繕計画の策定に取り組みます。

(5) 外国人観光客に向けた取組

京都コンサートホールに来場する外国人観光客に対応するため、館内の英語による表示や場内英語アナウンスの充実を図ってまいります。

また、英語対応の販売システムを通じ、より多くの外国人の方にチケット購入をしていただけるようホームページに掲載の公演情報の英語版の充実を引き続き取り組んでまいります。

4 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

(1) 自主事業ラインアップの発行

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するための年間パンフレットを発行し、京都コンサートホールのビジョンを提示することで、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

(2) 催物カレンダーの発行（毎月）

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のほか、京都コンサートホールで開催される最新の催物情報を掲載した「京都コンサートホール コンサートガイド」を毎月発行します。より多くの魅力的な情報をお届けすることで、チケットの販売促進につながります。

(3) ホームページ等の充実

インターネットの利点を最大限に活かし、閲覧者に常に新鮮な情報を発信し、情報の充実や画面の見やすさの工夫を行うとともに、利用者の利便性に最大限配慮したVR機能の導入の検討を行ってまいります。

(4) チケット票券管理システムの効果的な運用

ロームシアター京都と共通のチケット販売システムの運用を行い、市民サービスの向上とともに貸館利用促進に結びつけてまいります。

また、英語対応の販売システムを通じ、より多くの外国人の方にチケット購入をしていただけるようホームページに掲載の公演情報の英語版の充実に引き続き取り組んでまいります（再掲）。

(5) 貸館利用者のチケット販売受託業務の実施

チケット管理システム（Getiii）を使用して、貸館利用者のチケット販売を受託（手数料10%）し、施設利用者や観客の利便性向上に貢献します。

(6) セット券の販売

お客様の多様なニーズに対応するため、平成30年度に引き続き、セット券を販売します。平成31年度は、京都コンサートホールへ14年ぶりの登場となるアメリカの5大オーケストラのひとつ『フィラデルフィア管弦楽団』、ベルギーの名門『ベルギー王国リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団』、そして『京響スーパーコンサート』を組み合わせたい「BIG3」を販売します。また、アンサンブルホールムラタでは、世界のトップクラスの室内楽を鑑賞する『北山クラシック倶楽部』の前半3公演、後半4公演の2回に分けて、それぞれ100枚限定でセット券を販売します。

両セット券では共通座席「マイシート」も継続し、大ホール・アンサンブルホールムラタの両ホールで最上の鑑賞機会を提供します。

(7) 学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境の整備

コンサートホールの自主事業における学生割引制度、シニア割引制度、障がい者割引制度を実施し、学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境を整備します。

(8) ウィークデーパッケージプランの運用

クラシック音楽だけではなく、他のジャンルにも間口を広げ、多様な音楽ファンが集えるホールとして「京都コンサートホールウィークデーパッケージプラン」を引き続き実施し、平日のホール利用率向上に努めます。

(参考) ウィークデーパッケージプラン事業数

年 度	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
事業数	10事業	13事業	11事業	14事業

(9) 外部資金の獲得

主催事業の実施に当たっては、文化庁助成、民間助成に加え、民間企業等からの協賛金の獲得に努めます。さらには、賛助会員制度（5 各種会員制度等の運営（2）賛助会員制度の運営 参照）を活用します。

5 各種会員制度等の運営

(1) 「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」と「京響友の会」の会員数拡大に向けた取組

ロームシアター京都のオープンに伴い、「京都コンサートホールClub」を「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」と改称し、平成27年度から運用を始めました。平成31年度も引き続き「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」と「京響友の会」の2つの会員制度の周知を図るとともに、各会員様を限定とした京都市交響楽団の練習風景の公開や京都コンサートホール・ロームシアター京都の両施設のバックステージツアーやグッズ割引を実施するなどの特典を付与することにより、新規会員の獲得に努めてまいります。

フレンズ（オンライン）会員についても、メールマガジンで随時情報を発信して京都コンサートホールとロームシアター京都への関心を喚起し、会員の維持・拡大に努めます。

(参考) 会員数の推移

(単位：名)

会 員 制 度	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
京都コンサートホール・ ロームシアター京都Club	2,020	3,513	3,074	2,900
京響友の会 個人会員	1,362	1,389	1,404	1,426
京響友の会 法人会員 (社)	94	99	100	96

(2) 賛助会員制度の運営

京都コンサートホールならびにロームシアター京都の主催事業の一層の充実のため、年間を通じた支援を受けるべく、賛助会員（サポーター・パートナー会員）制度を設けています。会員の方には情報誌の送付、チケットの先行予約、会員向けイベントなどの特典をご用意し、継続してご支援いただけるよう努めます。

(参考) 会員数と寄付金額の推移

会 員 区 分	平成28年度 実績		平成29年度 実績		平成30年度 (見込)	
スペシャルサポーター (法人)	3件	150万円	1件	50万円	1件	50万円
サポーター (法人)	36件	400万円	27件	290万円	31件	340万円
スペシャルパートナー (個人)	33件	164万円	34件	178万円	32件	162万円
パートナー (個人)	59件	118万円	50件	100万円	45件	90万円
合 計	131件	832万円	112件	618万円	109件	642万円

■ 地域文化会館

(東部文化会館, 呉竹文化センター, 西文化会館ウエスティ, 北文化会館, 右京ふれあい文化会館)

I 主催事業〔全57事業63公演5講座〕

地域文化会館が地域の文化芸術の活動拠点として、平成23年度から取り組んできた「地域文化芸術活動活性化協議会」「文化芸術活性化パートナーシップ事業」「アウトリーチ活動」などを引き続き実施し、文化芸術活動団体、行政、学校関係、地元の各団体等とのネットワークを強化し、文化芸術活動や情報の受発信、文化芸術活動の育成や支援、地域イベントへの積極的な関与など地域との関わりを深め、地域の文化芸術の振興に努めてまいります。

1 地域文化芸術活動活性化協議会の開催

各地域文化会館を拠点に活動しているパートナーシップ団体、行政、教育機関など、それぞれの代表者で構成された「地域文化芸術活動活性化協議会」を各地域文化会館に引き続き設置し、地域ネットワークの構築、文化芸術の情報提供、アウトリーチ事業の開催協力、施設運営への助言や意見交換などを行うとともに、協議会の持つネットワークを活用し、文化芸術活動・情報の受発信、事業の協働企画・開催など文化芸術の活動拠点として、より一層、地域における文化芸術活動の活性化を図るとともに、魅力ある地域づくりに貢献してまいります。

2 地域文化会館の重点的な取組

地域文化会館では、以下の5つの視点を重視した文化事業を実施します。

- ① 文化芸術活性化パートナーシップ事業
- ② 地域における文化芸術普及事業
- ③ 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業
- ④ 住民の文化芸術活動への支援型事業
- ⑤ 施設間の交流事業

(1) 文化芸術活性化パートナーシップ事業

京都市から委託を受けて取り組んできた「フランチャイズ(活動拠点)化事業」を、平成23年度から名称変更し財団の自主事業として、「文化芸術活性化パートナーシップ事業」を実施しています。本事業では、文化会館が地域の文化芸術の拠点であることを意識し、将来的に京都コンサートホール及びロームシアター京都との連携事業も視野に入れ、鑑賞型の「無料公演」に加えて、地域の子どもたちを対象とした「教育プログラム」のほか「アウトリーチ活動」にも積極的に取り組みます。また、地域の教育機関や福祉施設と連携し、文化芸術の社会包摂機能の更なる活用や地元の文化芸術団体と連携し、文化芸術活動の活性化やネットワークの強化と拡大を図ってまいります。

(参考) 平成31年度パートナー団体

文化会館名	パートナー団体
東部文化会館	日吉ヶ丘ギターマンドリンアンサンブル 京都橘大学吹奏楽部
呉竹文化センター	京・伏見音楽サークル和音 墨染交響楽団
西文化会館ウエスティ	NPO法人京都フィルハーモニー室内合奏団 吹奏楽団京都ムジークフェライン
北文化会館	吹奏楽団「雅」 京都セシリア合唱団
右京ふれあい文化会館	NEO吹奏楽団 RAM吹奏楽団

平成31年度は、10団体の応募があり、第1次、第2次選考委員会の結果、上記10団体に決定しました。

(2) 地域における文化芸術普及事業

ア 伝統的芸術文化の紹介

東部文化会館では地域の小学生を対象に、狂言の実演、解説を交えての「狂言鑑賞会」を、呉竹文化センターでは「藤森神社 藤森雅楽会による雅楽鑑賞会(仮称)」、右京ふれあい文化会館では右京区に能舞台を構える杉浦能楽会による、「未来へつなぐ伝統芸能「はじめての能」その2(仮称)」を小規模な能の実演として、地域で継承されている伝統芸能等を広く市民に紹介するなど、古都京都の財産である地域の芸能を市民に紹介する事業として、各地域文化会館において伝統芸能の公演を開催します。

イ アウトリーチ事業

地域文化会館5館で、市民の文化芸術活動の活性化や地域の文化芸術の振興を目的として、地域文化会館に登録している協力団体(文化芸術活動団体)が地域の各団体、学校、福祉施設などからの依頼により、ミニコンサートやワークショップ等を行う「アウトリーチ事業」に積極的に取り組みます。

また、京都のクラシック音楽の殿堂として機能する京都コンサートホールと連携し、生のクラシック音楽をより多くの市民に届ける、京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join us! ～^{ジョイナス}キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』を協働で実施します。

(3) 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業

ア 地域の教育機関との連携

京都市立芸術大学と連携した「ウエスティ音暦(おとごよみ)」(2公演)を西文化会館ウエスティで、また、「京芸ルネッサンス2019 文化会館コンサート」(2公演)を

北文化会館で実施し、才能ある若い世代の活動を支援します。また、右京ふれあい文化会館では、右京区内の中学校による「第18回右京ふれあい合同演奏会」を開催し、呉竹文化センターでは、京都市内の大学の落語研究会やサークルの学生による落語・漫才を披露する「第26回学生お笑い呉竹寄席」を昨年度に引き続き開催します。

イ 子どもを対象とした体験型事業

次世代の文化芸術活動を担う子どもたちが、多様な芸術表現に触れ豊かな感性と創造性を身につけるための事業として、東部文化会館では、「アニメーション体験事業 夏休みアニメ体験～てづくりアニメの世界 メイドインキョウト～（仮称）」を、西文化会館ウエスティでは、「夏休みウエスティたんけんツアー（仮称）」を新たに実施します。

（４）住民の文化芸術活動への支援型事業

ア 市民参加型事業（活動団体の支援）

市民の誰もが文化芸術活動に参加し自己表現することに感動できる事業として、「市民創造ステージ」を平成31年度も引き続き呉竹文化センター、西文化会館ウエスティ、北文化会館、右京ふれあい文化会館で開催します。

また、東部文化会館では、地域との連携・協働による参加型事業として、地域のコーラスサークルによる発表や交流の場とする「第15回コーラス・フェスティバル in 山科・醍醐」を開催します。

イ 地域と連携しアーティストのパフォーマンスを支援

西文化会館ウエスティでは地域ネットワークを活用し、地元で活動している文化芸術活動団体にパフォーマンスの場を提供し、地域への活動情報の発信などを通じてアーティストの技術・芸術性向上への支援を行う「ウエスティ・パフォーマンス広場」を開催し、また、右京ふれあい文化会館では、文化芸術活性化協議会との連携事業として、地域で活動している文化芸術団体などにパフォーマンスの場を提供するとともに、地域住民のコミュニティの場として「あーる de 右京」を開催します。

ウ 創作文化の作品展示

賑わいスペースの創出として、東部文化会館では「ギャラリーエコム」、呉竹文化センターでは「呉竹アートケース」、西文化会館ウエスティでは「ウエスティ ギャラリー」、北文化会館では「KITABUNミニギャラリー」、右京ふれあい文化会館では「右京ふれあいミニギャラリー」を通年で開催します。

エ 舞台芸術活動なんでも相談会

市民の舞台芸術の芸術性や創造性を高めるため、公演やコンサートでの照明・音響演出、舞台運営方法など舞台づくりに関する相談について、専門性豊かな技術担当者が提案やアドバイスを行います。

(5) 施設間の交流事業

ア 鑑賞型事業の実施

市民が京都市交響楽団を通じて、気軽にクラシック音楽を楽しめるように、京都市交響楽団のメンバーによるクラシック音楽のコンサート「ちょっと素敵な朝からクラシック」を呉竹文化センター2公演と北文化会館1公演を開催します。

イ 舞台作品創造事業の制作に向けた公演及びワークショップの実施

地域文化会館5館とロームシアター京都との連携事業として、乳幼児の創造性を豊かに、また、親子で舞台芸術文化に身近に触れる機会を提供し、地域コミュニティの活性化を目的として『カラフルパズル』ダンセマ・ダンス・シアター from リトアニアを開催します。

ウ 京都市ジュニアオーケストラの活動支援

京都コンサートホールとの連携事業で京都市交響楽団が指導する「京都市ジュニアオーケストラ」においては、音楽活動を充実させるため、練習会場として各地域文化会館を活用するとともに、活動内容の情報を発信するなど、若いオーケストラを支える環境づくりを行います。

また、右京ふれあい文化会館ではミュージックサマーキャンプを無料で実施します。

エ 京響コーラスの活動支援

京響コーラスの練習会場として文化会館での利用支援や練習公開を実施することで、京響コーラスのレベルアップと地域の文化振興を図ります。

(参考) 文化会館における事業・公演数の変遷

年 度	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)	平成31年度 (計画)
事業数	53事業	43事業	52事業	47事業	57事業
公演数	78公演	70公演	75公演	68公演	63公演
講座数	5講座	2講座	11講座	14講座	5講座

II 受託事業

1 指定管理者業務

地域文化会館の指定管理者として、地域住民の文化芸術を核にした「豊かなくらしの実感」を提供するとともに地域住民の多彩な文化的活動の拠点としての機能を発揮し、更なる利用の促進を図ります。

2 施設管理の目標

平成31年度の施設利用料金収入額等の目標については、過去3年間の実績を基本に平成30年度実績見込及び平成31年度申込状況等を勘案し設定しました。

目標1 利用料金収入額

(単位：千円)

施設	平成31年度 目標	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
東部文化会館	30,580	26,058	29,570	29,705	31,308
呉竹文化センター	42,793	44,527	42,952	40,044	37,689
西文化会館ウエスティ	34,416	32,306	33,066	32,806	30,500
北文化会館	38,655	39,030	37,906	37,187	37,723
右京ふれあい文化会館	36,333	35,716	36,877	36,572	34,181

目標2 日数利用率

(単位：%)

施設	平成31年度 目標	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
東部文化会館	63	60	61	59	62
呉竹文化センター	76	79	78	76	74
西文化会館ウエスティ	61	56	66	57	59
北文化会館	80	82	78	77	77
右京ふれあい文化会館	76	73	74	77	67

以上、各施設の規模、立地条件、地域との連携等を活かした事業を企画し、各種文化芸術活動団体、教育機関、京都市交響楽団との連携をより一層深めながら、文化芸術の振興・発展を目指すとともに、サンキューレターの活用による利用者のリピート率向上を図り、これまで以上に集客及び増収に取り組んでまいります。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上委員会（CS委員会）の推進【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

4 集客のための取組

(1) 地域文化会館割引制度

地域文化会館の平日のホール利用の促進や、追加利用に対するサービス向上を図るため、引き続き平日直前利用割引制度と平日連続区分利用割引制度を実施します。

(参考) 地域文化会館割引制度利用数 (単位：件)

平日直前利用割引	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
東 部 文 化 会 館	1	4
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	2	2
西文化会館ウエスティ	2	6
北 文 化 会 館	1	3
右京ふれあい文化会館	11	9
計	17	24

平日連続区分利用割引	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
東 部 文 化 会 館	46	49
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	67	62
西文化会館ウエスティ	37	33
北 文 化 会 館	41	41
右京ふれあい文化会館	38	39
計	229	224

■ ロームシアター京都

I 主催・共催事業

新たな指定管理期間の一年目として重要な第一歩を踏み出す、ロームシアター京都は、「世界市民のための劇場へ」をテーマに創造・交流・育成・生活の4つの事業の要素を柱に「劇場文化」を創出してまいります。

平成31年度は、29年度から30年度の2か年継続してきた取組に新たな展開を持たせるべく、ロームシアター京都オープニング事業の4つの要素「創造」「育成」「交流」「生活」を核としながらも、洋の東西を問わず世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや次代を担う芸術家の育成に国際的な視点で取り組んでいきます。さらにロームシアター京都が開かれた場として、人々の交流を活性化させるべく、京都のさまざまな施設や団体と連携しながら、地域に根をおろしていく事業を展開します。

あわせて、賑わいスペース事業やミュージックサロン事業等により、賑わいの創出や身近に文化芸術に親しむための取組を引き続き進めてまいります。

1 主催・共催事業の実施〔33事業58公演2講座〕

平成31年度事業は、これまで以上に「総合」に分類される事業が増えています。ロームシアター京都がご紹介する作品・プロジェクトは、その質はもちろんのこと、チャレンジ精神も重要な要素です。従来の「演劇」「音楽」「舞踊」などのジャンルでは分類しきれない新しい取り組みは、複合的な要素を持ったものであり、ラインアップを通じて新しい価値を提示していきます。同時に作品と社会の関係や、作品を創造し育むための様々な視点を得ながら、ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し、今日における劇場の果たすべき役割を見出していきます。

上記の目的を果たすため、自ら舞台芸術作品を企画・制作するシリーズ、他の劇場・芸術団体と共同で新作を制作するシリーズを発展させます。さらに、地域文化会館や青少年活動センターなど、京都で活動する他の文化施設と連携し、京都における文化芸術のハブとしての機能を高めるための事業を実施します。小澤征爾音楽塾や新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室といった従来の事業に加え、新たに「劇場の学校プロジェクト」を開始することで、次代を担う若者を育成する事業をより深化させていきます。また、京都国際舞台芸術祭といった国内外の交流と地域の賑わいを創出する事業も引き続き実施します。

2 賑わいスペース事業

パークプラザには、飲食をしながら読書などができるブック&カフェや、催物前後の語りを楽しむことのできるレストラン等があり、また、岡崎公園ともつながるローム・スクエアやロビー等では、マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示等を通じて子どもから大

人まで楽しめる空間が広がっており、様々な人々が日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶサイクルが生まれています。

ロームシアター京都が舞台芸術にとどまらず、多くの方の交流の場となり、岡崎エリアの賑わいの一翼を担っていくために、賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り、ホールでの催物に加えて日常的にさまざまなサービスやイベントを展開していきます。

(参考) 賑わいスペースを活用した事業内容等

事業内容	場所, 店舗名称	営業時間
ブック&カフェ	パークプラザ1階 (屋外テラス等を含む) 【京都岡崎 蔦屋書店】 【スターバックスコーヒー】	午前8時から午後10時
ギフト雑貨販売		午前8時から午後10時
クローク		午前8時から午後9時
レンタサイクル		午前8時から午後8時
インフォメーション		午前8時から午後10時
レストラン	パークプラザ2階 (屋外テラス等を含む) 【京都モダンテラス】	午前8時から午後11時
レセプション コンベンションサービス		
キオスク	サウスホール1階ホワイエ内 【ファミリーマート】	午前8時から午後10時
ギャラリー・ライブラリー	パークプラザ3階 共通ロビー内 【BOOK&ART GALLERIA】	午前9時から午後7時 (開館時間等に応じて変更)

3 ミュージックサロン事業

音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」を、公益財団法人ロームミュージックファンデーションと共同運営します。

- ・公開時間 午前10時～午後7時（年中無休、臨時休館日等を除く）
- ・場 所 パークプラザ3階

「ミュージックサロン」は、①音楽その他文化芸術に関する資料の展示、②セミナー、講演会、コンサート等の文化芸術イベントを開催する施設として運営しています。オーケストラやオペラなどの貴重な映像を大型スクリーンでご鑑賞いただくほか、ロームシアター京都でのオペラ公演に関連する特別展示等を開催、また、概ね2ヶ月ごとにコンサートを開催してまいります（入場無料）。

(参考) ロームシアター京都における事業・公演数の変遷

年 度	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)	平成31年度 (計画)
事業数	19事業	26事業	34事業	31事業	33事業
公演数	25公演	50公演	111公演	93公演	58公演
講座数	—	—	4講座1展示	2講座	2講座

※平成27年度は、オープニング・プレ事業（3事業6公演）を含む。

II 受託事業

1 指定管理業務

各施設の特性を活かした施設利用が行われるよう、充実した設備や立地、また新しい施設としての注目度を活かした集客の可能性や実績の強調等により、従前の利用者にもこれまで通り利用していただきながら、MICEなども含めた新たな利用の促進も引き続き図ってまいります。

また、的確な利用調整や各種指標に基づく施設管理等による効率的で効果的な施設運営を行い、あわせて利用料金収入の確保に努めます。

2 施設管理の目標

平成31年度の施設利用料金収入額等の目標については、平成29年度の実績、平成30年度実績見込及び平成31年度申込状況等を勘案し設定しました。

(1) 施設利用促進に向けた営業活動

各施設の特性や3年間の実績等を踏まえ、本格的な総合舞台芸術公演等を積極的に誘致するとともに、市民の文化活動の発表の場として各施設の特性が最大限発揮されるような利用を促進していきます。また、利用者への各種サポート等により利便性の向上に努め、繰り返しロームシアター京都を利用していただけるよう努めてまいります。

(2) MICE誘致に向けた関係機関との定期的な協議

多彩な文化・交流施設が集積し、国の「重要文化的景観」にも選定された岡崎エリアにおいて、より質の高いMICEの開催が可能となることを積極的にPRするとともに、MICE等の誘致・対応に向けて、京都市及び京都文化交流コンベンションビューロー、みやこめっせ等との情報連携を強化し、様々なニーズに応えていきます。

目標1 利用料金収入額

(単位：千円)

区 分	平成31年度 目標	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
ホール等利用料金	343,149	352,462	353,364	331,000

目標2 入場者数

(単位：名)

区 分	平成31年度 目標	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
入場者数	510,000	496,240	707,367	500,000

目標3 日数利用率

(単位：%)

施設	平成31年度 目標	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 (見込)
メインホール	82	92	82	81
サウスホール	81	81	76	80
ノースホール	73	71	74	72

- 上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。
- 関西圏・首都圏の主要プロモーター・プロダクションや、京都府・京都市内の教育機関、文化団体への営業活動等を実施します。
- ノースホールについては新たな施設であることから、主催事業等で実績を強調しホールの存在をアピールするほか、新たな利用想定にあった利用者候補（演劇や舞踊など）を新規開拓するとともに、利用しやすい環境づくりに努め、利用に結び付けていきます。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上会議（CS会議）等の推進

利用者・来場者の安心・安全を確保し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上のため、職員や委託業者が参加するCS（顧客満足度向上）会議等を開催し、利用ニーズの把握、要望の検証等を行い、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」の設置【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

(3) 賑わいスペース事業者定期連絡会の開催

賑わいスペース事業における各店舗の責任者等との定期的な連絡会を開催し、日常的な施設運営に係る様々な情報共有を確実に行うことで、施設全体として円滑な連携のもと、サービスの向上に努めます。

(4) 楽屋エリアフリーWi-Fiの提供

メインホール・サウスホール・ノースホールの全ての楽屋エリアに、利用者の利便性の向上のため、フリーWi-Fiを設置します。

(5) 施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後の実際の運用により把握してきた施設や各種機器の特性などを踏まえ、利用状況や季節変動等に応じた日常の設備運用や保守点検、備品管理などを工夫し、利用者への情報提供等を行うことで、よりの確で効率的な施設運営に努めま

す。また、各種マニュアルの更新や場内サービス業務等の研修、施設全体に係る防災訓練等をひきつづき実施することで、安心・安全で快適な劇場空間を提供してまいります。

4 広報・宣伝，チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

催物カレンダーや事業ラインアップの発行，ホームページやSNSの運用，貸館の広報，会員制度の運用及び事業実施等にあわせた話題づくり等により，効果的な広報・宣伝を展開し，ロームシアター京都への期待感を引き続き高めていくとともに，劇場の認知度をさらに高めることで来館や貸館利用の促進に努めます。

また，京都コンサートホールと共通のチケット販売システムの運用を行い，市民サービスの向上とともに貸館利用促進に結びつけてまいります。

(1) 自主事業ラインアップの発行

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するためのリーフレットを発行し，ロームシアター京都のビジョンを提示することで，劇場のファンを増やすとともに，施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

(2) 催物カレンダーの発行（毎月）

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のほか，ロームシアター京都で開催される最新の催物情報を掲載した「ロームシアター京都 イベントカレンダー」を毎月発行し，チケットの販売促進につなげます。

(3) ホームページ等の充実

ホームページについては，平成27年度に開設し，アクセスの分析等を踏まえた掲載情報の更新，閲覧や掲載作業に係るシステムの更新等を重ねてきました。平成31年度には，コンテンツをさらに充実させるとともに，より閲覧しやすく使用しやすいものとなるよう工夫を図ってまいります。

(4) チケット票券管理システムの効果的な運用【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

(5) 貸館利用者のチケット販売受託業務の実施【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

(6) 外部資金の獲得【再掲】

京都コンサートホール（9ページ）参照

5 各種会員制度の運営

(1) 「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」と「京響友の会」の会員数拡大に向けた取組【再掲】

京都コンサートホール（9ページ）参照

(2) 賛助会員制度の運営【再掲】

京都コンサートホール（10ページ）参照

■ 京都市交響楽団

I 主催・共催事業〔29事業55公演〕

平成28年度に創立60周年を迎えた京都市交響楽団は、今や国内外から高い評価を得る我が国屈指のオーケストラへと成長を遂げました。

平成31年度は、京響が幅広い音楽の中心となって存在価値を高め、多様な日常生活に浸透し市民の誇りとなり、文化芸術都市・京都にふさわしいオーケストラを目指し、演奏活動等に取り組んでまいります。

1 定期演奏会

日本を代表する3人の常任指揮者陣、広上淳一、高関健、下野竜也に加え、巨匠から実力派、新進気鋭の若手まで幅広く、世界で活躍する指揮者やソリストを招き、古典から近・現代までの魅力あふれる楽曲を数多く揃え、芸術性の高い、充実した演奏を提供してまいります。

2 特別演奏会

恒例のスプリングコンサート、第九コンサート及びニューイヤーコンサートを開催し、充実した出演者と心躍る楽曲により、時節を彩る演奏をお届けします。

3 特別演奏会（市外公演）

常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーである広上淳一指揮のもと、東京公演の他、大阪及び名古屋で演奏会を開催し、日本屈指の演奏力と評される京響の知名度や評価の全国区での更なる浸透を目指します。

4 オーケストラ・ディスカバリー

名曲の演奏と楽しいトークでオーケストラやクラシック音楽の魅力を紹介する青少年のための演奏会を開催し、青少年の情操の向上や健全な心の育成とともに、若い世代へのオーケストラの振興と普及を図ります。年4回のシリーズ券を設定することにより、定期演奏会の会員への導入コンサートとしての位置づけとしています。

5 みんなのコンサート

地域の文化会館を会場に低料金で0才から入場できる演奏会を開催し、日頃クラシック音楽に接する機会の少ない市民の皆様にも身近で生の演奏に接する機会を提供し、地域密着型のオーケストラとしてクラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、京響ファンの獲得を図ります。

6 京響プレミアム

クラシック音楽のジャンルを超えたアーティスト・芸術文化とのコラボレーションによる演奏会を京都のほか、埼玉においても開催し、オーケストラの生み出す新しい音楽世界の魅力を提供することにより、幅広いオーケストラファンの獲得を図ります。

7 共催事業

「OKAZAKI LOOPS」や「時の響」等、音楽を通して岡崎エリアや北山エリアの活性化にも寄与する文化イベントの企画・制作を行うほか、京都市の小・中学生を対象とした音楽鑑賞教室などを開催し、クラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、京響ファンの獲得を図ります。

8 その他事業

福祉施設等への訪問演奏、京都市交響楽団の練習風景の公開、京都市ジュニアオーケストラへの演奏指導、中学生や高校生を対象とした楽器講習会、京響コーラスの運営など、京都に根差した音楽活動を通して、京響を市民に身近に感じていただく活動や将来の音楽文化の担い手の育成などにも取り組みます。

II 受託事業

依頼に応じて、京都市内の演奏会に加え、近江の春びわ湖クラシック音楽祭や、佐世保公演、「時の響」鳥取公演等市外の演奏会にも出演し、クラシック音楽の普及や京響のアピールに取り組めます。

■ その他

I 組織人員体制・配置等の最適化

平成25年4月から運用を開始いたしました新人事給与制度は、経営の安定化を図るとともに、プロパー職員が財団運営の中心となって働きがいのある職場づくりを進めるため、経営目標の実現に向けて着実に実行してまいりました。

また、平成28年度からは嘱託職員の人事・給与制度の改正を行い、財団で働く職員全員が働きがいのある職場となるように努めてまいりました。

平成31年度についてはこれまでの人事給与制度の運用を安定的に行うとともに、組織運営・人員体制の実態等に応じて、更なる改革を行うとともに、働き方改革等への対応が行えるように効果的な組織運営を構築してまいります。

II 働き方改革等への対応

時間外労働等に関する法改正への対応を的確に行い、職員等にとってより働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。

平成31年度は年次有給休暇の取得の推進や更なる時間外労働の抑制の推進を実施します。

III 人材育成・職員研修

職員一人ひとりが、常に知識、意欲、技術の向上を図ることで利用者により一層気持ちよく使用していただくとともに、社会的要請や環境変化に対応して、より自立的・安定的な組織運営力を発揮していくために必要な研修を実施してまいります。

平成31年度についても、すべての基本となる接遇マナー研修をはじめ、多くの利用者が集まる施設の管理運営を行っていることから消防訓練、AED講習、エレベーター閉じ込め訓練、舞台管理安全研修等を継続的に実施いたします。

また、平成30年度に刷新した、職員マニュアルをベースに新規採用職員に対しての基本研修やコンプライアンスの一層の推進を図る研修を引き続き実施するとともに、次世代を担う職員向けの管理職研修等を実施してまいります。

IV 環境への配慮

当財団は、平成20年のKES（京都市環境マネジメントシステム・スタンダード）認証の取得以後、毎年再認証を取得しています。

平成31年度も、職員全員が環境マネジメント活動を推進し、地球環境との調和を目指し、積極的な節電対策など環境に配慮した会館運営を行います。

リサイクル促進について、利用者から発生する缶・ビン・ペットボトルなど、ゴミの分別廃棄を徹底するとともに、業務上発生する印刷書類等裏側の再利用やリサイクル紙の購入等をはじめとするグリーン調達を行います。

設備・備品調達や外部委託発注においても、グリーン調達及び委託業者の環境配慮動向を見極めた発注を行うように努めます。

エネルギー削減を行うため、会館内の適正冷暖房の設定及び不必要な電灯の消灯等の取組を徹底してまいります。

V 京都市交響楽団楽団員の財団職員化に向けた取組

2020年4月に予定されている京都市交響楽団楽団員の当財団への受入れについて、京都市との協議、連携のもと、京響発展のための方向性や、京都市から財団に対する財政・人的支援の具体的内容、楽団員の労働条件や財団職員との処遇の整合性の確保等の検討を行い、スムーズな移管及び安定的な運営の実現に向け取組を進めてまいります。

『収益事業』

I 公益目的外の施設提供事業

1 駐車場経営

指定管理業務として、主に来館者向け駐車場として運営してまいります。

駐車場目標収入額

施設	目標駐車場収入額
京都コンサートホール	20,186,000円
東部文化会館	5,047,000円
西文化会館ウエスティ	6,056,000円
右京ふれあい文化会館	6,056,000円
計	37,345,000円

2 オリジナルグッズ等販売

京都コンサートホールオリジナルグッズや京響オリジナルグッズ等を販売してまいります。

オリジナルグッズ等目標収入額

項目	目標収入額
京都コンサートホール	640,000円
ロームシアター京都	234,000円
京都市交響楽団	464,000円
計	1,338,000円

3 プレイガイドの運営

主催者から、入場券の作成業務及び入場券の販売業務を受託し、それぞれのプレイガイドで販売します。

入場券販売業務受託収入の目標収入額

施設	目標収入額
京都コンサートホール	17,000,000円
東部文化会館	40,000円
呉竹文化センター	70,000円
西文化会館ウエスティ	40,000円
北文化会館	50,000円
右京ふれあい文化会館	40,000円
ロームシアター京都	9,000,000円
計	26,240,000円

平成31年度

収支（正味財産増減）予算

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

平成31年度収支（正味財産増減）予算書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	20	1,300	△ 1,280	
1 基本財産運用益	20	1,300	△ 1,280	
基本財産受取利息等	20	1,300	△ 1,280	
② 特定資産運用益	200	200	0	
1 特定資産運用益	200	200	0	
特定資産受取利息等	200	200	0	
③ 事業収益	2,176,076	2,177,538	△ 1,462	
1 自主・共催事業収益	720,761	742,184	△ 21,423	
入場料収益	196,686	197,359	△ 673	
参加料収益	2,268	1,535	733	
友の会会費	60,400	59,768	632	
京響コーラス会費	3,000	2,880	120	
広告料収益	39,820	53,566	△ 13,746	
共催事業収益	239,621	277,470	△ 37,849	
助成金収益	176,688	147,137	29,551	
物品販売等収益	1,778	1,669	109	
著作隣接権等収益	500	800	△ 300	
2 事業受託収益	134,680	153,740	△ 19,060	
事業受託収益	134,680	153,740	△ 19,060	
3 管理受託収益	637,836	651,936	△ 14,100	
管理受託収益	637,836	651,936	△ 14,100	
4 利用料収益	630,710	585,216	45,494	
ホール利用料金収益	593,365	548,216	45,149	
駐車場利用料金収益	37,345	37,000	345	
5 その他事業収益	52,089	44,462	7,627	
企画・演出手数料等収益	14,220	13,220	1,000	
賑わい事業収益	20,640	19,440	1,200	
プレイガイド事務手数料収益	17,229	11,802	5,427	
④ 受取補助金等	766,530	740,252	26,278	
1 受取地方公共団体補助金	766,530	740,252	26,278	
京都市補助金	766,530	740,252	26,278	
⑤ 受取寄付金	6,020	7,020	△ 1,000	
1 受取寄付金	6,020	7,020	△ 1,000	
寄付金収益	6,020	7,020	△ 1,000	
⑥ 雑収益	10,649	10,886	△ 237	
1 雑収益	10,649	10,886	△ 237	
受取利息等	1	1	0	
管理手数料等収益	10,292	10,415	△ 123	
雑収益	356	470	△ 114	
経常収益合計	2,959,495	2,937,196	22,299	

平成31年度収支（正味財産増減）予算書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
(2)経常費用				
①事業費	2,980,541	2,926,296	54,245	
役員報酬	4,083	3,375	708	
給料手当	1,089,639	1,045,570	44,069	
賞与引当金繰入額	35,261	31,063	4,198	
退職給付費用	15,551	10,027	5,524	
臨時雇賃金	51,453	65,974	△ 14,521	
福利厚生費	193,434	180,977	12,457	
会議費	325	325	0	
旅費交通費	58,249	58,773	△ 524	
通信運搬費	24,754	25,489	△ 735	
減価償却費	18,814	17,286	1,528	
消耗什器備品費	2,350	3,500	△ 1,150	
消耗品費	31,463	32,922	△ 1,459	
商品費	1,000	1,150	△ 150	
見本費	20	50	△ 30	
修繕費	27,700	17,300	10,400	
印刷製本費	49,491	44,297	5,194	
広告宣伝費	41,855	36,571	5,284	
燃料費	10	10	0	
光熱水料費	175,400	180,596	△ 5,196	
賃借料	76,844	68,638	8,206	
保険料	2,258	2,609	△ 351	
諸謝金	3,548	4,976	△ 1,428	
租税公課	62,705	53,535	9,170	
支払負担金	2,602	25,457	△ 22,855	
チケット購入額	150	200	△ 50	
委託費	999,468	1,002,253	△ 2,785	
接遇交際費	60	200	△ 140	
支払手数料等	7,080	7,798	△ 718	
雑費	4,974	5,375	△ 401	
②管理費	25,456	26,997	△ 1,541	
役員報酬	2,917	3,094	△ 177	
給料手当	13,065	13,927	△ 862	
賞与引当金繰入額	1,099	1,094	5	
退職給付費用	379	695	△ 316	
福利厚生費	3,546	3,873	△ 327	
会議費	200	200	0	
旅費交通費	200	300	△ 100	
通信運搬費	100	100	0	
減価償却費	306	250	56	
消耗什器備品費	100	100	0	
消耗品費	300	300	0	
修繕費	50	50	0	

平成31年度収支（正味財産増減）予算書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
印刷製本費	50	50	0	
諸謝金	397	399	△ 2	
租税公課	1,837	1,605	232	
支払負担金	300	300	0	
委託費	500	500	0	
接遇交際費	50	100	△ 50	
支払手数料等	50	50	0	
雑費	10	10	0	
経常費用合計	3,005,997	2,953,293	52,704	
当期経常増減額	△ 46,502	△ 16,097	△ 30,405	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 引当金戻入益				
引当金戻入益計	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
① 固定資産除却損				
固定資産除却損計	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 46,502	△ 16,097	△ 30,405	
一般正味財産期首残高	657,920	674,017	△ 16,097	
一般正味財産期末残高	611,418	657,920	△ 46,502	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	55,000	55,000	0	
指定正味財産期末残高	55,000	55,000	0	
III 正味財産期末残高	666,418	712,920	△ 46,502	

平成31年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公 1	公 2	小 計				
	文化芸術事業	ホケストラによる 文化芸術事業					
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1)経常収益							
①基本財産運用益	20	0	20	0	0	0	20
1 基本財産運用益	20	0	20	0	0	0	20
基本財産受取利息等	20	0	20	0	0	0	20
②特定資産運用益	200	0	200	0	0	0	200
1 特定資産運用益	200	0	200	0	0	0	200
特定資産受取利息等	200	0	200	0	0	0	200
③事業収益	1,466,965	481,253	1,948,218	392,903	25,456	△ 190,501	2,176,076
1 自主・共催事業収益	401,010	317,973	718,983	1,778	0	0	720,761
入場料収益	80,696	115,990	196,686	0	0	0	196,686
参加料収益	2,268	0	2,268	0	0	0	2,268
友の会会費	3,500	56,900	60,400	0	0	0	60,400
京響コース会費	0	3,000	3,000	0	0	0	3,000
広告料収益	32,750	7,070	39,820	0	0	0	39,820
共催事業収益	190,434	49,187	239,621	0	0	0	239,621
助成金収益	91,362	85,326	176,688	0	0	0	176,688
物品販売等収益	0	0	0	1,778	0	0	1,778
著作隣接権等収益	0	500	500	0	0	0	500
2 事業受託収益	9,228	163,280	172,508	0	0	△ 37,828	134,680
事業受託収益	9,228	163,280	172,508	0	0	△ 37,828	134,680
3 管理受託収益	505,121	0	505,121	107,259	25,456	0	637,836
管理受託収益	505,121	0	505,121	107,259	25,456	0	637,836
4 利用料収益	551,606	0	551,606	223,609	0	△ 144,505	630,710
ホール利用料金収益	551,606	0	551,606	186,264	0	△ 144,505	593,365
駐車場利用料金収益	0	0	0	37,345	0	0	37,345
5 その他事業収益	0	0	0	60,257	0	△ 8,168	52,089
企画・演出手数料等収益	0	0	0	14,220	0	0	14,220
賑わい事業収益	0	0	0	20,640	0	0	20,640
プレイガイド事務手数料収益	0	0	0	25,397	0	△ 8,168	17,229
④受取補助金等	0	757,704	757,704	8,826	0	0	766,530
1 受取地方公共団体補助金	0	757,704	757,704	8,826	0	0	766,530
京都市補助金	0	757,704	757,704	8,826	0	0	766,530
⑤受取寄付金	6,020	0	6,020	0	0	0	6,020
1 受取寄付金	6,020	0	6,020	0	0	0	6,020
寄付金収益	6,020	0	6,020	0	0	0	6,020
⑥雑収益	1	0	1	10,648	0	0	10,649
1 雑収益	1	0	1	10,648	0	0	10,649
受取利息等	1	0	1	0	0	0	1
管理手数料等収益	0	0	0	10,292	0	0	10,292
雑収益	0	0	0	356	0	0	356
経常収益合計	1,473,206	1,238,957	2,712,163	412,377	25,456	△ 190,501	2,959,495

平成31年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公 1	公 2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
(2)経常費用							
①事業費	1,489,294	1,270,375	2,759,669	411,373	0	△ 190,501	2,980,541
役員報酬	2,333	1,458	3,791	292	0	0	4,083
給料手当	293,592	659,822	953,414	136,225	0	0	1,089,639
賞与引当金繰入額	23,113	2,144	25,257	10,004	0	0	35,261
退職給付費用	10,755	1,247	12,002	3,549	0	0	15,551
臨時雇賃金	16,606	10,669	27,275	24,178	0	0	51,453
福利厚生費	53,439	112,556	165,995	27,439	0	0	193,434
会議費	325	0	325	0	0	0	325
旅費交通費	29,793	28,114	57,907	342	0	0	58,249
通信運搬費	12,390	11,493	23,883	871	0	0	24,754
減価償却費	7,054	9,987	17,041	1,773	0	0	18,814
消耗什器備品費	1,492	450	1,942	408	0	0	2,350
消耗品費	18,614	8,262	26,876	4,587	0	0	31,463
商品費	0	0	0	1,000	0	0	1,000
見本費	0	0	0	20	0	0	20
修繕費	21,342	2,600	23,942	3,758	0	0	27,700
印刷製本費	37,382	11,271	48,653	838	0	0	49,491
広告宣伝費	25,179	16,512	41,691	164	0	0	41,855
燃料費	9	0	9	1	0	0	10
光熱水料費	132,960	5,150	138,110	37,290	0	0	175,400
賃借料	106,116	107,386	213,502	2,247	0	△ 138,905	76,844
保険料	995	1,150	2,145	113	0	0	2,258
諸謝金	1,274	1,810	3,084	464	0	0	3,548
租税公課	35,541	9,330	44,871	17,834	0	0	62,705
支払負担金	1,650	800	2,450	152	0	0	2,602
チケット購入額	150	0	150	0	0	0	150
支援事業助成金	5,600	0	5,600	0	0	△ 5,600	0
委託費	648,086	262,615	910,701	134,763	0	△ 45,996	999,468
接遇交際費	40	10	50	10	0	0	60
支払手数料等	1,558	3,347	4,905	2,175	0	0	7,080
雑費	1,906	2,192	4,098	876	0	0	4,974
②管理費	0	0	0	0	25,456	0	25,456
役員報酬	0	0	0	0	2,917	0	2,917
給料手当	0	0	0	0	13,065	0	13,065
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	1,099	0	1,099
退職給付費用	0	0	0	0	379	0	379
福利厚生費	0	0	0	0	3,546	0	3,546
会議費	0	0	0	0	200	0	200
旅費交通費	0	0	0	0	200	0	200
通信運搬費	0	0	0	0	100	0	100
減価償却費	0	0	0	0	306	0	306
消耗什器備品費	0	0	0	0	100	0	100

平成31年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公1	公2	小 計				
	文化芸術事業	ホケテラによる 文化芸術事業					
消耗品費	0	0	0	0	300	0	300
修繕費	0	0	0	0	50	0	50
印刷製本費	0	0	0	0	50	0	50
諸謝金	0	0	0	0	397	0	397
租税公課	0	0	0	0	1,837	0	1,837
支払負担金	0	0	0	0	300	0	300
委託費	0	0	0	0	500	0	500
接遇交際費	0	0	0	0	50	0	50
支払手数料等	0	0	0	0	50	0	50
雑費	0	0	0	0	10	0	10
経常費用合計	1,489,294	1,270,375	2,759,669	411,373	25,456	△ 190,501	3,005,997
当期経常増減額	△ 16,088	△ 31,418	△ 47,506	1,004	0	0	△ 46,502
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
① 引当金戻入益							
引当金戻入益計	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
① 固定資産除却損							
固定資産除却損計	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額			0		0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 16,088	△ 31,418	△ 47,506	1,004	0	0	△ 46,502
一般正味財産期首残高			653,841	4,079	0	0	657,920
一般正味財産期末残高			606,335	5,083	0	0	611,418
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			55,000	0	0	0	55,000
指定正味財産期末残高			55,000	0	0	0	55,000
III 正味財産期末残高	0	0	661,335	5,083	0	0	666,418